

ヨウ化オキサピウム顆粒 Oxapium Iodide Granules

溶出試験 本品の表示量に従いヨウ化オキサピウム($C_{22}H_{34}INO_2$)約0.01gに対応する量を精密に量り、試験液に水 900mL を用い、溶出試験法第 2 法により、毎分 50 回転で試験を行う。溶出試験を開始し、規定時間後、溶出液 20mL 以上をとり、孔径 0.45 μ m 以下のメンブランフィルターでろ過する。初めのろ液 10mL を除き、次のろ液を試料溶液とする。別にヨウ化オキサピウム標準品を 105 で 4 時間乾燥し、その約 0.022g を精密に量り、水に溶かし、正確に 100mL とする。この液 5mL を正確に量り、水を加えて正確に 100mL とし、標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液 100 μ L ずつを正確にとり、次の条件で液体クロマトグラフ法により試験を行い、それぞれの液のオキサピウムのピーク面積 A_T 及び A_S を測定する。

本品が溶出規格を満たすときは適合とする。

ヨウ化オキサピウム($C_{22}H_{34}INO_2$)の表示量に対する溶出率(%)

$$= \frac{W_S}{W_T} \times \frac{A_T}{A_S} \times \frac{1}{C} \times 45$$

W_S : ヨウ化オキサピウム標準品の量(mg)

W_T : ヨウ化オキサピウム顆粒の秤取量(g)

C : 1g 中のヨウ化オキサピウム($C_{22}H_{34}INO_2$)の表示量(mg)

試験条件

検出器：紫外吸光光度計(測定波長：210 nm)

カラム：内径 4.6mm，長さ 15cm のステンレス管に 5 μ m の液体クロマトグラフ用オクタデシルシリル化シリカゲルを充てんする。

カラム温度：40 付近の一定温度

移動相：メタンサルホン酸 5mL にトリエチルアミン 5mL 及び水を加えて 50mL とした液に、アセトニトリル 500mL，緩衝液用 1mol/L リン酸水素二カリウム試液 35mL 及び水 415mL を加える。

流量：オキサピウムの保持時間が約 4 分になるように調整する。

システム適合性

システムの性能：標準溶液 100 μ L につき、上記の条件で操作するとき、オキサピウムのピークの理論段数及びシンメトリー係数は、それぞれ 2000 段以上、2.0 以下である。

システムの再現性：標準溶液 100 μ L につき、上記の条件で試験を 6 回繰り返すとき、オキサピウムのピーク面積の相対標準偏差は 2.0% 以下である。

溶出規格

表示量	規定時間	溶出率
20mg/g	15 分	80%以上

ヨウ化オキサピウム錠 Oxapium Iodide Tablets

溶出試験 本品 1 個をとり、試験液に水 900mL を用い、溶出試験法第 2 法により、毎分 50 回転で試験を行う。溶出試験を開始し、規定時間後、溶出液 20mL 以上をとり、孔径 0.45 μm 以下のメンブランフィルターでろ過する。初めのろ液 10mL を除き、次のろ液 $V\text{mL}$ を正確に量り、表示量に従い 1mL 中にヨウ化オキサピウム($\text{C}_{22}\text{H}_{34}\text{INO}_2$)約 11 μg を含む液となるように水を加えて正確に $V'\text{mL}$ とし、試料溶液とする。別にヨウ化オキサピウム標準品を 105 で 4 時間乾燥し、その約 0.022g を精密に量り、水に溶かし、正確に 100mL とする。この液 5mL を正確に量り、水を加えて正確に 100mL とし、標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液 100 μL ずつを正確にとり、次の条件で液体クロマトグラフ法により試験を行い、それぞれの液のオキサピウムのピーク面積 A_T 及び A_S を測定する。

本品が溶出規格を満たすときは適合とする。

ヨウ化オキサピウム($\text{C}_{22}\text{H}_{34}\text{INO}_2$)の表示量に対する溶出率(%)

$$= W_S \times \frac{A_T}{A_S} \times \frac{V'}{V} \times \frac{1}{C} \times 45$$

W_S : ヨウ化オキサピウム標準品の量(mg)

C : 1 錠中のヨウ化オキサピウム($\text{C}_{22}\text{H}_{34}\text{INO}_2$)の表示量(mg)

試験条件

検出器：紫外吸光光度計(測定波長：210nm)

カラム：内径 4.6mm，長さ 15cm のステンレス管に 5 μm の液体クロマトグラフ用オクタデシルシリル化シリカゲルを充てんする。

カラム温度：40 付近の一定温度

移動相：メタンサルホン酸 5mL にトリエチルアミン 5mL 及び水を加えて 50mL とした液に、アセトニトリル 500mL，緩衝液用 1mol/L リン酸水素二カリウム試液 35mL 及び水 415mL を加える。

流量：オキサピウムの保持時間が約 4 分になるように調整する。

システム適合性

システムの性能：標準溶液 100 μL につき、上記の条件で操作するとき、オキサピウムのピークの理論段数及びシンメトリー係数は、それぞれ 2000 段以上、2.0 以下である。

システムの再現性：標準溶液 100 μL につき、上記の条件で試験を 6 回繰り返すとき、オキサピウムのピーク面積の相対標準偏差は 2.0% 以下である。

溶出規格

表示量	規定時間	溶出率
10mg	30 分	80%以上